

1 2月校長の想い

一寸の光陰軽んずべからず

神津島に冬の「西」が吹き荒れています。皆様におかれましては、お元気に過ごされていることと存じます。

この神津島には、2年前からお世話になっていまして今年で3年目をむかえています。

来た当初は、海底ケーブルが切れたとのことで通信障害がありました。それも無事に終わろうとしていると新型コロナウイルスの問題が発生して、学校も休校になる等、パンデミックとなりました。まだ、安心はできない中でワクチン等の接種が進んだことが良かったのか日本各地でコロナも収束して様子と思っていると今度は軽石問題が勃発しています。

どのような時代でも悩みは尽きないのが世の常なのでしょうか。

大切なことは、そのような出来事に対して一喜一憂せずに自分自身の課題に向き合って一日一日を大切に生きていくことだと思います。

P T Aの広報誌「えびね」の中で、卒業生が10月には合格する予定であった大学であったが、そんなに甘いものではなかったと書いている。1, 2年生の時にはまだ受験は先だから大丈夫であろうとあまり勉強せずに、暑い日は海へ行き、天気の良い日はスケートボードをするという日々を送っていた。気が付いた時には、もう受験生だったと…。

この生徒も最終的には、大学に合格して良かったと思っています。

私は、この先輩の言葉をよく考えて大学に行くために日々勉強しようと言うことを言いたいではありません。

勉強しているうちに、自分自身に課題が見つかり、その課題を解決するために学んでいると、学ぶことが楽しくなって研究に研究を重ねていたら、気付いた時に大学へ進学していた。大学というものは、そのような所であると考えています。

今年もあと1カ月を残すのみとなりました。

この1年間を振り返り、時間を大切に、自分を大切に生きていきましょう。